

一般会計予算決算常任委員会
理科大分科会記録

令和2年9月10日

【開催日】 令和2年9月10日（木）

【開催場所】 大会議室

【開会・散会時間】 午後1時30分～午後3時3分

【出席委員】

分科会長	高松秀樹	副分科会長	藤岡修美
委員	奥良秀	委員	笹木慶之
委員	中村博行	委員	松尾数則
委員	森山喜久	委員	山田伸幸
委員	吉永美子		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	小野泰	副議長	矢田松夫
----	-----	-----	------

【執行部】

副市長	古川博三	大学推進室長	大谷剛士
大学推進室主査	大坪政通	大学推進室主任主事	尼崎幸太

【事務局出席者】

事務局長	尾山邦彦	事務局次長	石田隆
------	------	-------	-----

【付議事項】

- 1 議案第89号 令和2年度山陽小野田市一般会計補正予算（第11回）について（理科大分科会所管分）
- 2 議案第78号 令和元年度山陽小野田市一般会計歳入歳出決算認定について（理科大分科会所管分）

午後1時30分 開会

高松秀樹分科会長 それでは、一般会計予算決算常任委員会理科大分科会を始めます。いろいろ委員会があつて皆さん御存じだと思いますけど、新型

コロナウイルス感染症防止対策として、換気をおおむね30分で行います。つまり、30分程度で1回休憩したいと思います。さらに、効率的な委員会運営のために、委員の質疑は要領よく簡潔にお願いします。答弁についても簡潔で明快な答弁に努めていただきたいと思います。それでは、早速、補正予算から入ります。議案第89号令和2年度山陽小野田市一般会計補正予算（第11回）の中の理科大関係分について説明をお願いします。

大谷大学推進室長 それでは、令和2年度山陽小野田市一般会計補正予算（第11回）の大学関係分につきまして御説明します。まず、歳出から御説明しますので、補正予算書21ページ、22ページを御覧ください。この度の補正は、令和2年度の普通交付税が決定したことに伴うもので、2款総務費、7項大学費、1目大学費につきまして、補正前の額16億6,554万2,000円を5,575万6,000円増額し、補正後の額を17億2,129万8,000円とするものです。この増額となりました5,575万6,000円につきましては、25節積立金、公立大学法人運営基金積立金として積み立てております。それでは、補正の内容につきまして御説明しますので、本日お手元に配付しております資料①、資料②を御覧ください。まず、資料①を御覧ください。これは、令和2年度に、大学分として措置される普通交付税額をお示したもので、資料の左側が当初予算、右側が、この度の補正予算になります。当初予算における令和2年度の大学分として措置される普通交付税額につきましては、学生一人当たりの交付額に学生数を乗じた金額に、令和2年度から始まりました国の高等教育無償化に伴う授業料等減免に係る金額を加えたものが措置されるものと想定していました。しかし、新制度のため、具体的にどのような算出根拠となるか、予算作成時に把握できていませんでした。このため、従来、公立大学に係る普通交付税の算出においては、公立大学の授業料収入の11.5%が授業料の減免措置等による欠損分として考慮されていたことから、新年度では授業料の減免に加え、入学金も減免の対象となりますので、令和2年度に措置

される普通交付税額は、授業料収入の欠損分が考慮された従来の学生一人当たりの交付額に学生数を乗じた金額に、想定される入学金の減免額を加えた金額としました。その内訳としましては、資料左側の表の下の当初予算、白抜きの①の欄ですが、運営費分として19億3,356万3,000円、授業料等減免分として8,796万7,000円と算出し、令和2年度の当初予算における大学分として措置される普通交付税額を20億2,153万円としていました。しかし、この度、実際に措置されました普通交付税額は、従来の学生一人当たりの交付額に学生数を乗じた金額と、授業料等減免の新制度における入学金と授業料の減免分については別に算出されていて、その両者を足したものが措置額となっていました。その内訳としましては、資料右側の表の下の、今回補正白抜きの②の欄ですが、運営費分として19億8,845万6,000円。これには、割合は小さくなっていますが、従来同様、授業料収入の欠損分が含まれています。そして、令和2年度からの新制度となります授業料等減免分として1億3,566万2,000円が措置されていて、令和2年度に措置される大学分の普通交付税の金額は、これらを合計した21億2,411万8,000円となり、当初予算から1億258万8,000円の増額となっています。次に、資料②を御覧ください。これは、令和2年度に、大学分として措置される普通交付税の用途についてお示ししたものです。資料の左側が第1回補正時、右側が、この度の補正になります。大学分として措置される普通交付税につきましては、原則として公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学への運営費交付金や大学関連事業であります山口東京理科大生の市内定住促進事業の経費として、また、令和2年度分は、大学分として措置される普通交付税額の20%を薬学部校舎建設関連経費、事業費、公債費、財政調整基金の積み戻し等に充当することとしていますが、これらを財源として充当した後、なお余剰があれば、公立大学法人運営基金に積み立てることとしています。まず、第1回補正時、資料左側ですが、大学分として措置される普通交付税の額は20億2,153万円で、その用途としまして、校舎建設費として措置される普通交付税額の20%相当額の4億

430万6,000円、運営交付金に15億9,098万7,000円、授業料等減免補助金に7,171万3,000円、その他大学関連経費、これは商工労働課が実施する理科大生の定住促進事業ですが、その財源として797万1,000円の合計20億7,497万7,000円が必要との算出となり、差引き5,344万7,000円が不足することとなりました。このため、不足する5,344万7,000円を公立大学法人運営基金から繰り入れることとしておりました。しかし、この度、令和2年度の大学分として措置される普通交付税額が資料右側のとおり決定したことに伴い、大学分として措置される普通交付税額は21億2,411万8,000円で、補正前の額から1億258万8,000円の増額となりました。この普通交付税の使途としましては、校舎建設費として措置される普通交付税額の20%相当額の3億9,769万1,000円、運営費交付金に15億9,098万7,000円、授業料等減免補助金に7,171万3,000円、その他大学関連経費797万1,000円の合計20億6,836万2,000円が必要な経費となりますが、差引き5,575万6,000円が余剰となりますことから、この額を公立大学法人運営基金に積み立てるものです。なお、校舎建設費に充当する普通交付税額の20%の取扱いにつきましては、従来は11.5%の授業料の減免措置等による欠損分も含めた普通交付税措置額全額に20%を乗じて求めておりましたが、この度の国の授業料等減免制度分につきましては、従来の算出方法とは別に算出されたものであり、当該制度を実施するために措置されているものであることから、この授業料等減免分を除いた、普通交付税措置額に20%を乗じて求めております。このように、大学分として措置される普通交付税額が増額となりましたことから、当初予算におきましては、不足する5,344万7,000円を公立大学法人運営基金から繰り入れることとしておりましたが、これを繰り入れず、余剰となる5,575万6,000円を公立大学法人運営基金に積み立てることとしております。これにより、補正後の財源内訳の特定財源、その他繰入金5,344万7,000円が減額となり、一般財源を1億920万3,000円増額しています。

一般財源の1億920万3,000円は、普通交付税措置額の増額分1億258万8,000円と校舎建設費の充当分が661万5,000円減額となっておりますので、これらを合算した額となります。この繰入金の減額につきましては歳入関係となりますので、続いて歳入について御説明します。補正予算書15ページ、16ページの19款繰入金、1項基金繰入金、4目公立大学法人運営基金繰入金、1節公立大学法人運営基金繰入金、公立大学法人運営基金繰入金を5,344万7,000円減額しております。これは、歳出で御説明しました令和2年度の大学分の普通交付税措置額の増額によるもので、この補正により、令和2年度は当該基金からの繰入れはありません。なお、参考としまして、平成28年度の公立化以降の運営費交付金及び普通交付税措置額の推移を資料③にまとめていますので、御覧ください。上から順に、大学の自主財源、運営費交付金、授業料等減免補助金の推移。続いて、工学部薬学部大学全体の普通交付税措置額の推移を示しています。普通交付税措置額につきましては、現在薬学部の学生が毎年約120人ずつ増えていますので、全体として措置される普通交付税額は増えていますが、トップランナー方式により、平成29年度から5年間、学生一人当たりの交付額が毎年約3%ずつ減額されていることから、工学部では、令和元年度、今年度と2年続けて前年度の措置額から大きく減額となっております。これは、工学部の学生数の減とともに、トップランナー方式の影響によるものと考えています。このように、公立大学に対する普通交付税措置額は年々厳しい状況となってきていますが、このような中におきましても、教育研究活動を充実させ、優秀な人材を育成するとともに、地域貢献活動に取り組んでいかなければなりませんので、今後より一層効率的な大学運営が行えるよう、大学と密接に連携してまいりたいと考えています。以上で説明を終わります。御審議のほど、よろしく申し上げます。

高松秀樹分科会長 説明がありました。なかなか数字が多くて分かりにくいところもあるんですけど、不明な点も含めて、委員の質疑を求めます。

山田伸幸委員 学生一人当たりの運営費交付金は、当初から、年々減額されると言われておりましたけれど、これはもう未来永劫続いていくということなんでしょうか。その先の見通しはどうなんですか。

大谷大学推進室長 公立化になったときから毎年大体1%程度ずつ減額になっていたんですが、このトップランナー方式ということで、5年間、平成29年度から5年間、約3%ずつ落ちていき、この5年間で約15%、一人当たりの経費が落ちていくということで、それ以降につきましては、特にまだはっきりしたものはありませんが、減額になった後は通常どおりに戻るのか1%になるのか、ちょっと今は分からない状況です。傾向からすると、減額になっている傾向にあると考えています。

山田伸幸委員 トップランナー方式だと、別枠で国からの交付金か何かがあって、特別に運営費交付金が3%減額されるのか、そういった何か理由があるんですかね。私の感覚で言うと、トップランナーだから国も何か特別の手当てがあるのかなと思っていたんですけど、違うんでしょうか。

大谷大学推進室長 このトップランナーにつきましては、先進事例ということで、効率化とか、そういったことに取り組んでおるそういった先進的なものを反映させたものになっておりますので、特にこの3%減額になるからということで、何か別の手当てがあるということはありません。

高松秀樹分科会長 5年間って令和3年までですか。何年までですか。

大谷大学推進室長 はい。そのとおりです。

高松秀樹分科会長 令和3年まで。トータル15%ということですか。

山田伸幸委員 資料3の薬学部のところ、生徒数が3年生で107人となっているんですが、何か減少した理由はありますか。

大谷大学推進室長　これは退学とか留年とか、そういったものが反映されたものと考えております。

山田伸幸委員　介入になっちゃいけませんけれど、何か特別な理由が考えられるんでしょうかね。非常に優秀な生徒が来ておられると認識しておったんですけど、いかがでしょうか。

古川副市長　在学中に、他大学を受け替える学生もおるやに聞いております。

高松秀樹分科会長　この学生数の減員は、よくマスコミで言われているコロナ影響によって学業を続けられないとか、そういう状況での人数減ではないということですね。

大谷大学推進室長　一応、この度、国の新制度で授業料等の補助があるということと加えて、また大学のほうでは独自の減免制度も取り入れておりまして、コロナ関係で経済的に困窮されているという中で、大学独自の制度の中でお一人ほど、そういったコロナの影響でという方がいらっしゃったとお聞きしています。国の新制度による授業料等の減免の中では、コロナが原因という方はいらっしゃらないとお聞きしています。

山田伸幸委員　コロナの影響で授業方式が変わって、学生が大学構内に入らずにリモートでやられるということなんですけれど、うまく全学生がリモート授業を受けられるような体制は整っていたということでしょうか。

大谷大学推進室長　当初は、いろいろと施行錯誤はされたと思いますが、現状、特にリモートにしたことによって何か問題が起きているとは聞いていませんが、大学にしても、学生にしても、コロナは初めての経験になりますので、試行錯誤しながらいい方向で教育研究が受けられるように対応されていると考えています。

中村博行委員 結局、対面授業とリモートの割合というのは。対面授業は全くないということでしょうか。

大谷大学推進室長 今は、もう既に対面授業が大部分だと認識しております。

高松秀樹分科会長 ほか、いいですか皆さん。（「はい」と呼ぶ者あり）ないようでしたら、議案第89号令和2年度山陽小野田市一般会計補正予算（第11回）についての質疑を終わって、次に、決算認定に入るんですが、ちょっと早いですが、ここで1回休憩しましょうか。これ、次に入ると時間が長くなるので、ここで1回5分休憩をしまして、55分に再開します。それでは暫時休憩します。

午後1時48分 休憩

午後1時55分 再開

高松秀樹分科会長 それでは、分科会を再開します。続きまして、議案第78号令和元年度山陽小野田市一般会計歳入歳出決算認定について、理科大関係分になります。審査事業から先に行います。まず、審査事業のナンバー38について、執行部の説明を求めます。

大谷大学推進室長 それでは、審査対象事業ナンバー38、山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部校舎建設事業につきまして御説明します。審査資料107ページを御覧ください。当該事業の概要としましては、平成30年4月に山陽小野田市立山口東京理科大学に薬学部を設置するため、薬学部の教育研究活動に必要な校舎、研究機器類などの施設・設備の整備を行うものです。当該事業の当初計画では、平成28年度から平成30年度の3か年で、校舎、薬用植物園、グラウンド等の施設の整備を、平成29年度から平成31年度までの3か年で、薬学部研究機器類の整備

を行うこととしておりました。しかし、計画当初から非常にタイトなスケジュールであったことに加え、校舎の建設に係る工期について、市が適正な工期を設定していなかったことや当初の推進体制がぜい弱であったこと、またその後におきましても、危険物倉庫建設に関する問題や建築基準法、消防法の違反等、様々な問題が生じ、B棟の建設及び江汐公園の薬用植物園の整備を除き、現在に至るまで計画どおり工事が進捗していない状況となっています。このような状況となりましたことにつきましては、大学や議会を始め、関係者の皆様に大変な御迷惑、御心配をお掛けしておりますことをおわび申し上げます。令和元年度の主な事業としましては、平成29年度からの3か年事業であります薬学部研究機器類整備事業、平成30年度から繰り越したグラウンド・テニスコート整備に係る調査設計業務、薬用植物園等の外構整備工事、駐輪場整備工事、そして令和元年度事業として、新危険物倉庫の設計業務、薬用植物園の附属施設であります管理棟及び温室、駐輪場周辺等の整備を行う外構整備工事を実施することとし、薬学部研究機器類整備事業、薬用植物園等の外構整備工事、駐輪場整備工事につきましては、令和元年度内に完了し、駐輪場周辺等の整備を行う外構整備工事につきましては、令和2年度に繰り越しましたが、令和2年4月末に完了しました。また、グラウンド・テニスコート整備に係る調査設計業務につきましては、宇部市との開発協議に不測の日数を要したこと等から、令和2年度に繰り越しています。当該整備事業につきましては、1日でも早い完成を目指して、関係者に御協力いただく中で進めてまいりましたが、令和2年1月に、大学敷地内における危険物の貯蔵量が建築基準法に規定する指定数量を超えていたことが明らかになり、建築基準法に違反していることが判明しました。これにより、この違法状態が解消されるまでは、新たな建設事業ができないこととなり、予定していました新危険物倉庫、薬用植物園の附属施設であります管理棟及び温室の建設工事に向けての事務をストップせざるを得ず、これに伴い、進めておりました新危険物倉庫の設計業務を中断しました。この建築基準法違反の問題につきましては、先月、8月12日に山陽小野田市内の大学敷地の用途地域が、第一種住

居地域から準工業地域へ変更されたことにより、現在は、建築基準法違反の状態が解消されています。この用途地域変更の手続におきましては、建設部都市計画課を始め、大学周辺地域の皆様、山口県、宇部市等、関係機関の皆様の御理解と御協力を頂きましたことに心より感謝申し上げます。令和元年度の決算額につきましては、審査資料108ページを御覧ください。職員手当や、旅費、需用費、役務費、使用料及び賃借料、負担金、補助及び交付金の事務費が97万3,692円、委託料が122万9,800円、工事請負費が8,394万5,160円、備品購入費が2億6,501万7,364円で、合計3億5,116万6,016円となっています。なお、当該事業の財源としましては、充当率75%の学校教育施設等整備事業債2億6,330万円を活用しています。薬学部校舎建設事業を含めた大学費全体の令和元年度の具体的な決算状況につきましては、歳出は本日お配りしております資料④、歳入は資料⑤にまとめておりますので、参考にさせていただければと存じます。令和元年度の事業につきましては、ただいま御説明しましたとおり、建築基準法違反により事業が実施できなかったことや令和2年度に工事を繰り越すなど、計画どおりに整備を進めることができていませんが、活動指標又は成果指標に活動指標として掲げております薬学部校舎等建設スケジュールにつきましては、工事請負費と備品購入費の支出予定額4億6,513万6,024円に対して、実績が3億4,890万3,124円でしたので達成率が75%となり、目標達成度をB評価、令和3年度に向けた方向性を成果・コストともに現状維持としています。令和3年度に向けた課題及び改善策につきましては、新危険物倉庫、薬用植物園の附属施設であります管理棟及び温室、グラウンド・テニスコートの整備を進めていくこととなりますので、施設整備に向けて大学と協議・調整を行い、関係部署に御協力いただく中で、早期の着工を目指してまいります。以上で説明を終わります。御審議のほどよろしく申し上げます。

高松秀樹分科会長 それでは、委員からの質疑を求めます。

山田伸幸委員 今年度のことで先ほど説明されたんですが、用途地域変更は、もう県まで含めて全部完了したんでしょうか。

大谷大学推進室長 手続につきましては、都市計画が担当しておりますが、都市計画課から、県の了解も承認を得られて、了解、ちょっと言葉があれですけど、その手続が終わって無事、8月12日に第一種から準工業地域に変更になったと御報告を頂いております。

山田伸幸委員 これを受けて、いつぐらいから未着工の部分に着手できるということなんでしょうか。

大谷大学推進室長 新危険物倉庫の建設につきましては、当初、平成30年度に完成して、平成31年4月から使用することとしていましたが、消防法の基準を満たしていないため新たに造ることになったということです。その作業を進めている中で建築基準法違反という問題が出て、着工できなくなりました。この件が発生しまして、大学とも協議を重ねてまいりました。その中で、来年度から4年生がもう出てきて、3年、4年となると研究が主になってきます。その中で、この度、建築基準法の関係で敷地内における全体の数量は大きく緩和されて問題なくなりましたが、逆に、6月の議会でもちょっと資料でお示ししたかも分かりませんが、消防法上の問題で、それぞれの校舎等における数量がほぼぎりぎりの状況で、教育研究を円滑に進めていくためには1日でも早く、危険物倉庫が必要になってくると。そこで、今、その整備の仕方については、新たに従来どおり市が建設していく方法がいいのか、逆に既製品のような、消防法とかクリアした既製品のような倉庫がありますので、それを据え付けていくほうがいいのか、ちょっとこれまで議会のほうで私どもが御説明した内容と異なるような整備の方法になるかもしれませんが、その辺の整備手法につきましては、今、大学と協議をしておるという状況です。

吉永美子委員 この107ページのところで、新危険物倉庫のことを言われた

んですが、やはり学生の生活に大変支障を生じている。大切な設備がまだまだというところで、ここにありますように早急に必要な調整を図り、早期の着工を目指すと思ったので、これをちょっと具体的に教えていただきたいと思います。

大谷大学推進室長 危険物倉庫につきまして、そういう先ほど御説明した現状ということと、薬用植物園等につきまして、倉庫を含めた管理棟と温室ということで設計等までは済んでおるんですが、温室につきまして、4年生とかは教育研究が出てくるということの中で、そういった施設もどの施設もそうなんですが、既に完成しているという当初の計画から1年、2年と遅れてきて、これから整備することによって、また更に1年後ぐらいになっていくということになると、教育研究に支障が出る可能性も高くなるということもありますので、その整備の手法につきましては、従来どおりの手法がいいのか、倉庫等につきましては、きちんと建てるという方向もありますが、これも危険物倉庫と同じような形でプレハブのようなものがありますので、そういったものでも代用できるのか、その辺は今、併せて大学と協議しています。温室につきましては、大学の中でも、薬用植物園を担当される方が、組織的に人もちょっと替わられたということもありますので、大学と今、回を重ねて協議をしている状況です。また運動場、テニスコートにつきましては、今、設計が最終段階に入ってきていますので、その辺を含めて大学と調整をしている状況です。ただ、設計中ですので、グラウンド等につきましては、工期がどれぐらいでということとは、まだ分からない状況になっています。

高松秀樹分科会長 吉永委員も含めて、もう少し具体的にお答え願いたいということだと思っんですよね。早期の着工を目指して、いつ頃の話がされているのか、よく分かんないんですよね。

大谷大学推進室長 危険物倉庫と薬用植物園の関係につきましては、これは、市がするのか、また大学の中で据置き等の、そういったもので対応され

るのかということも含めますが、大学で整備していただくような形になれば、現状ある中で対応していただくということで、すぐに整備はできるかなと考えています。市であれば、危険物倉庫につきましては、設計を途中でやめていますので、また12月で委託料の補正をして、それから、また6月議会等に工事費を出して、危険物倉庫を建てていくというような形になって、半年ぐらい工期が掛かるので、来年の12月末かそれぐらいになろうかと。もしかすると1年ぐらいは掛かっていくと。温室等につきましても設計が終わっておりますので、工事費を12月の議会で上げれば、その工期が1年程度掛ければ来年の1月、12月末ぐらいにはできるのではないかと考えております。また、運動場、テニスコートにつきましては、設計が完了すれば、早ければ12月議会で補正予算を提出させていただいて、それからちょっと工期がまだ定かではありませんが、1年ではできないと考えていますので、2年ぐらいの工期が必要かなと考えています。

高松秀樹分科会長 ということは、最終的に、我々の任期中には理科大は完成しないということになりますね。

松尾数則委員 今、75%の達成度で、達成度がBという表現なんですけれども、ひとつ、令和3年度に向けた方向性、今いろいろ話がありましたけれども、現状維持というのがどうも釈然とせんしね、いろんな意味でちょっと疑問に思うところがあるんだけど、どういう意味で現状維持と。

大谷大学推進室長 現状維持にしたのが、この本事業が有効と判断し、今後コストを維持し、成果も維持して事業を実施するというところからの現状維持です。

松尾数則委員 恐らくそういう返事だろうと思っていたんですが、ただ、ここに書いてあるように、これだけ遅れているんですよ。その中で、令和3年度に向けて現状維持という表現がちょっと釈然としない。これからど

うしていくのかがちょっと見えてこない。今いろいろ話がありましたけど、まだ明確な話じゃないもんね、先ほどあった話も。その辺のところ、釈然としてないので、きちんとしたものを出してもらいたいというか、言ってもらいたいなと思うんですけど。

高松秀樹分科会長 何か発言がありますか、いいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

吉永美子委員 先ほど言われた、最長でも2年後ぐらいになるというような話が出てくると、先ほどの、学生がよその大学に行っているということは、やっぱり学生そのものが学校に対しての不信感だったり愛校心を持たなくなったり、そういうことに波及していませんか。

古川副市長 学生が他の大学を受けるのは、その方の進路のことでの選択でして、この大学の設備うんぬんということではないと大学から聞いております。

大谷大学推進室長 先ほど、結構辞められている方がいらっしゃると、人数的に見るとそうなっているんですが、現状、留年される方がちょっと多いという形で、実数が減っているというよりは、ちょっと学年が3年でなくて、2年になったということで、退学率からするとそれほど高いわけではなく、2%ぐらい程度。特に他の大学と比べて高いとか低いとかということはないかと思っております。

山田伸幸委員 外構工事とか、駐輪場とかは一時期工事がストップしておったと思うんですけど、決算書によるともう完全に済んだということでしょうか。

大谷大学推進室長 外構工事につきましては、もう全て完了しておる状況です。

山田伸幸委員 機械器具費で、薬学部関係の機械器具整備事業についても、総額15億円余りあったのが、今期で2億6,500万円使用して、これで完全に研究機具類の整備も終わった、完了したと考えてよろしいのでしょうか。

大谷大学推進室長 当初の薬学部設置に伴う研究機器の整備は終了したということで、今後また新たな機械を大学で進めるに当たってはまた買われるかもしれませんが、市が、この薬学部設立に伴って、整備する事業は全て完了しております。

笹木慶之委員 先ほどちょっと意見がありましたけど、この達成度評価に関連することであえて確認するんですが、大変厳しい言い方をしますが、法令違反についても度重なるでしょう。度重なる法令違反ということへの認識が足りないのかなと思うんですけどね。いわんや、もちろん遅れてきているわけですから、それがなければ悠々と完成できていたわけですよ。そういうトラブルがあったにもかかわらず、期間も十分あったわけですが、いまだにその方針が決まっていない。通常であれば決算を打つ段階では、決算審査では翌年度の予算に対して、かなり実効性のあるものの内容が附帯されてしかるべきなんですよね。それが出ていない。いわんや、この工事に係っては、度重なって議会にいろんな形の対応が求められて。ということで、このBという評価は、やっぱり解せませんよ。むしろ、これ点数を付けられないのではないかなって思いますよね。欠点とは言いませんよ。そういうことじゃなしに、そういう評価ではなしに、早く成果の上がるような実効性を求めていくというような別の形を取られんとやね、ちょっとやっぱり皆さんの理解が得られないんじゃないかなって気がしますがね。だから、やはり、そのことは、我々の次元の問題ではなしに生徒に関係してくる問題ですから、一日も早く決定して、学業に影響のないようにしていただかないと、と思います。だから、大変厳しいことを言いますが、やっぱりこれは二度とあってはならないことですから、そういう戒めを込めて、やはり、きちっと表記さ

れた方がいいんじゃないかなと思いますけど、いかがでしょうか。

大谷大学推進室長 すいません、笹木委員の御意見はごもっともだと感じています。この目標達成度のBは、マニュアル等によって単純に75%ということで付けさせていただいたことで、本来であれば、今御指摘があったとおり、予定どおりにはほとんどできていない、最近に限ってはほぼできてないという状況ですので、Bじゃなくて一番下のランクでもいいような状況です。気持ち的にはBではないと思っておりますが、この評価上の75%ということでBを付けさせていただいたということです。

笹木慶之委員 だから、あえて言うのは、これ、一般的なルールに当てはめるんではなしに、本件については異例のそういうものがあったので、別の形で表現して、こういう形を当てはめるから、今言われたように現状維持と言われても困るんですよね。むしろ、拡大、拡充してもらわないと困ります。だから、そういうことは、この中に当てはまらなれど。こういう均一的なものにはね。だから、やはり、外した形でいくぐらいの対応をしてほしいなと思いますけどね。副市長いかがですか。

古川副市長 委員の皆様のお指摘はごもっともです。危険物倉庫等々につきましては、議会にもいろいろ御迷惑をお掛けしておりますし、また、大学当局にも度重なる御心痛も与えておるところです。そうした中で、今、一番いい手法として、とにかく、先ほど笹木委員も言われましたが、学生にとって何が一番いいかっていうのは、またこれ、市だけで考えられるものでもありません。薬学部の学生はもう3年生になりましたので、来年4年、5年となると、実習も増えたり外への実習等も増えたりしてくるわけです。大学と連携を密にしている中で、学生にとって一番何がいいかっていうのを今模索しておるのが現状ですし、実施計画の事業評価の様式はこのようなマニュアルで書いてはおりますが、先ほど室長も申しましたように、そういう形になって書いておりますが、御指摘を受けたことは真摯に受け止める中で、学生にとって一番いい方法、

大学運営にとって一番いい方法を、市の設置する大学ですので、責任を持って今後進めてまいりたいと思います。

笹木慶之委員 今、副市長が言われましたのでそれ以上言いませんが、そういう形で、やっぱり実効性のあるものに切り替えて、形式論にこだわるんではなしに、実績、実態を重視した対応してほしいと申し上げておきたいと思います。

山田伸幸委員 108ページの建設事業費の概要の中で、委託料に、実施設計業務委託で危険物倉庫のことが書かれておりますが、これは、もう既に業務発注をしていたということなのか、それとも使われなくなった倉庫のことなのか。

大谷大学推進室長 これは、新しい危険物倉庫を作るための設計委託業務で、昨年の秋に入札して業者を決定して、新しい危険物倉庫の設計をしていた、この設計委託料になります。

山田伸幸委員 では、これはもう完成品として市に納品されていると。設計書が届いているということなんでしょうか。

大谷大学推進室長 設計の段階の途中で、建築基準法違反の事実が出てまいりまして、業者等と話す中で事業を中断し、契約をそこで打ち切ったため、成果品はまだそこまでのしかできておりません。したがって、完成品がないということです。

山田伸幸委員 これで、当初の予算に比べて何%ぐらいの金額なんですか。

大谷大学推進室長 48%ぐらいです。

山田伸幸委員 ということは、200万円ぐらいの予算なんですか。

大谷大学推進室長 そうなります。

吉永美子委員 先ほど質疑させていただいてから考えていたんですけど、薬学部の学生は何とか間に合うかもしれないけど、工学部の学生は、理科大に入学して、運動場もテニスコートも一回も使うことなく卒業してしまう可能性がすごく高いですよ。そう考えると、やはり私は市の努力として、例えば本当に臨時議会を開いてでも早く議決をお願いしたいと動くべきだと思いますが、いかがですか。

大谷大学推進室長 御指摘のとおり、工学部の学生につきましては、グラウンドを一度も使わずにもう卒業されるということです。グラウンド等の整備につきましては、現在、設計が最終段階に入っていますので、御指摘のありましたように、1日でも早く建設に着工できるような形で進めてまいりたいと考えています。また、今御指摘のありました臨時議会を開いてでもということであれば、そういったことも視野に入れながら検討してまいりたいと考えております。

奥良秀委員 先ほど来から、市と大学のどちらかが、危険物倉庫であったり薬草園であったりとか、事業をするかということ協議されているということなんですが、いつ、その協議は決まるんでしょうか。

大谷大学推進室長 余り先延ばしにすると、どんどん遅れていくことになりまので、結論的には9月中には全て決めていきたいと考えております。

奥良秀委員 9月中ということで、期日が聞けていたんでよかったと思います。次に、設備の遅れ等々、いろいろ先ほど委員からもありましたけど、学生又は先生や教授に、適切にそういう情報を伝えられているかどうか教えてもらっていいですか。

大谷大学推進室長 一応、大学と学生の間では協議するというか意見交換をする場が設けられていますので、その中に先生方も入られてということですね。あと、学生から、「グラウンドはいつできるんですか」という問合せもあると大学からもお聞きしておりますので、分かり次第御回答するというので、大学には、今こういう状況ですとお伝えをしております。

奥良秀委員 先ほど吉永委員からもありましたが、使えないまま卒業するというのは本当に良くないと思います。だから、臨時議会というのがありますが、本来であれば私の代の前の、要は、大学のそういうふうな協議をするところでやっていけば、もっといいものができていたのかなと。そこをちゃんと臨時議会を開いていなかったから、今の議会がこういうふうに後手後手に回っているんじゃないかなと思っております。もう一つ、ちょっと質問なんですけど、今この評価、目標達成度がBになっております。先ほど、危険物倉庫であったり、そういうふうなものを言われましたけど、その後に「等」ってあったんですけど、その「等」ってというのは何かあるのかなと。多分ここで発表されていないような手直し等々が多分あるんじゃないかなと思うんですけど、その辺はいかがでしょうか。

大谷大学推進室長 今後の整備につきましては、危険物倉庫と薬用植物園の附属棟の管理棟倉庫棟と温室、グラウンド・テニスコートの整備ということが、当初計画にあった事業内容になりますので、現在残されているのはこの関係になります。

奥良秀委員 私が言っているのは、その事業も分かるんですけど、工事が延び延びになっていく中で、出来上がった校舎、出来上がった構造物等々の問題点っていうのが上がってきていると思うんですけど、手直しの部分。その辺も、資料恵与をすれば提出してもらえらるんではないかと、こういった場において、きちんとそういうことも精査されないと、何のために調査特別委員会という名の下に委員会やっているかよく分からないんですよ。実際問題、手直し部分って令和元年度の中であったんですかね。

大谷大学推進室長 手直しにつきましては、A棟、B棟、C棟それぞれ何件かというかまあまあ数はあったかなと思いますが、それぞれについての不具合につきましては、業者にその都度連絡して対応していただいて、もう既に終わったものもありますし、現在対応中のものもあります。

奥良秀委員 その手直しってというのは、室長から見て当たり前の多さなのか、当たり前以上多さなのか、どう思われますか。

大谷大学推進室長 私も他の建物がどれぐらいの頻度で手直しがあるのかっていうのはちょっと把握していませんが、素人の私だけの意見でいうと、まあまああるなという感じはしております。

奥良秀委員 まあ、あんまり言ってもあれなんで。今実際に見えるところが大体、補修・メンテナンスが行われていると思うんですが、もちろんこれ、大学の大きな設備なんで見えないところも多々あると思うんですよね。だからその辺もぼちぼち、これだけのことが起きているのであれば、きちんと精査、検査はされるべきだと思いますので、その辺は意見として述べさせてもらいます。先ほど来から出ています目標達成度、これに関しては、評価がちょっとできないかなと思っております。だから、この辺も、理科大のここの校舎整備事業に関しては、ちょっと別枠でっていうことで、ほかのものはそれなりに分かるんですけど、ここはちょっと評価が難しいかなと思います。

高松秀樹分科会長 奥委員が言った手直しうんぬんの話、実はこの委員会でそんな話は1回も聞いていないと思うんです。理科大建設事業は120億円という当初予算でやっているはずなんですけど、僕は建築家じゃないんで分かりませんが、今の奥委員の発言によると、できてすぐの建物にある一定数の手直しがあつたんじゃないかという話だと思うんですけど、資料恵与うんぬんって話もありましたけど、そういった資料がある

のならね、是非委員会に提出していただいて、この委員のメンバーは情報共有したいと思いますけど、それは可能ですか。

大谷大学推進室長 可能です。

高松秀樹分科会長 なら、お願いします。

山田伸幸委員 今のと重なることなんですけど、A棟とB棟は施工業者が違っておりまして。そのことにより、特にB棟は、工期内を守るためにかなりの人数も投入して間に合わせたということなんですけど、間に合わせたがための無理があったりはしないだろうか。逆に工期が延びても、やはり問題がA棟のほうにあるとか、特にA棟とB棟の違いで今事務局として何か考えておられること、思い当たることがあれば、ちょっと御紹介いただきたいんですが。

大谷大学推進室長 特にA棟とB棟と比べて、どちらに不具合が多いかって言われると、多少の差はあると思います。あとは全く同じ構造ではないんで、研究室等については同じかもしれませんが、食堂があったり、図書室があったりとかいろいろと構造等もちょっと全部が一緒じゃありませんので単純には比べることはできないかなと思いますけど、それぞれが、まあまあの数の不具合があったとは認識しております。

高松秀樹分科会長 資料を出してもらい、この理科大の委員会も近い将来、総括をするときが来ると思いますので、それに向かって我々も情報は取っておきたいという思いですので、よろしくお願いします。ほかに質疑がありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）なければ、ここで換気のために1回休憩します。5分休憩して、14時36分に再開します。

午後2時31分 休憩

高松秀樹分科会長 それでは、分科会を再開します。続いて審査事業 39 番、説明をお願いします。

大谷大学推進室長 審査対象事業ナンバー39、公立大学法人山口東京理科大学運営費交付金事業につきまして御説明します。審査資料 109 ページを御覧ください。当該事業の概要につきましては、山陽小野田市が平成 28 年 4 月に設立しました公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学の業務の財源に充てるために、地方独立行政法人法第 42 条及び公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学運営費交付金交付規則に基づき、公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学に対して運営費交付金を交付するものです。この運営費交付金は、市が定めた公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学が 6 年間で達成すべき業務運営に関する中期目標を達成するために活動する公立大学法人の業務の財源に充てることにより、法人の持続的な運営を確保することを目的として、公立大学法人が定めた、その事業年度の業務の運営に関する計画である年度計画に定める事業を実施するために要する経費のうち、予算の範囲内で市長が定める額を交付するものであります。当該事業の令和元年度の決算額は 15 億 3,752 万 3,000 円で、財源につきましては、審査資料 110 ページを御覧ください。財源の内訳は、地方交付税を財源とします公立大学法人運営基金繰入金が 3,354 万 4,625 円、企業等からの寄附金を財源とします公立大学法人運営基金繰入金 400 万円、一般財源が 14 億 9,997 万 8,375 円となっています。この一般財源 14 億 9,997 万 8,375 円につきましては、令和元年度の大学に係る普通交付税措置額を活用しています。なお、令和元年度の大学に係る普通交付税措置額は 18 億 8,142 万円で、運営費交付金は 15 億 3,752 万 3,000 円ですので、本来なら運営費交付金の財源は、全額令和元年度に措置される普通交付税で賄われることとなりますが、措置された普通交付税につきましては、その 20%相当額の 3

億7,628万4,000円を薬学部校舎建設関連経費の財源として、また、商工労働課が実施しております山口東京理科大学学生定住促進事業の財源として515万7,625円を充てておりますので、普通交付税措置額からこれらを差し引くと、残額が14億9,997万8,375円となり、運営費交付金15億3,752万3,000円に対し、3,754万4,625円不足することとなりますので、この不足する金額を公立大学法人運営基金から繰り入れております。公立大学法人運営基金の状況につきましては、資料⑥に平成28年度からの推移をまとめておりますので、参考にしていただければと存じます。令和2年5月31日現在、出納閉鎖時現在高は7億4,116万3,755円となっております。次に、活動指標又は成果指標につきまして御説明します。この事業につきましては、成果指標が三つあります。指標は、学部、大学院の収容定員で、成果、実績を在 student 数としております。まず一つ目は、工学部の学生数で、収容定員800人の指標に対して実績が887人、目標達成率が110.9%となっています。二つ目は、薬学部の学生数で、2年次までの収容定員240人の指標に対して実績が261人で、目標達成率は108.8%となっています。三つ目は、大学院の学生数で、収容定員39人の指標に対して実績が37人、目標達成率が94.9%となっています。大学院につきましては目標を達成しておりませんが、大学全体の学生数は1,185人で、令和元年度の大学全体の収容定員1,079人を上回っていることから、目標達成度をA評価としております。今後は、全ての項目について目標達成できるよう大学と連携してまいりたいと考えております。令和3年度に向けた課題及び改善策につきましては、運営費交付金は、市が定めた中期目標を達成するために活動する公立大学法人の持続的な運営を確保することを目的として交付していることから、運営費交付金の算定に当たっては、公立大学法人の業務や果たすべき役割を十分に踏まえつつ、より自律的、効率的な法人運営に資するよう、他の公立大学法人を参考にしながら、運営費交付金の算定ルール確立に取り組んでいかなければならないものと考えております。しかしながら、現状は薬学部校舎建設事業の遅れにより、計画し

た全ての施設が完成していないことや、薬学部の学生がまだ全てそろっていないこともあり、大学運営の全体像が見えてこず作業が進んでいない状況となっておりますが、少しでも早い時期に算定ルールが確立できるよう取り組んでまいります。また、現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、大学運営におきましても厳しい状況となっておりますが、学生、教職員等が安心して教育研究活動が行えるよう、ウィズコロナ、アフターコロナの時代に向けて、感染防止対策等に取り組んでいくことが重要になってくるものと考えておりますので、大学と密接に連携し、情報共有する中で対応してまいりたいと考えております。以上で説明を終わります。御審議のほどよろしく申し上げます。

高松秀樹分科会長 それでは、質疑を求めます。

山田伸幸委員 大学生を集めるためにオープンキャンパスをやられてきましたが、通常どれぐらい集まるのか。今年はされていないと思うんですけど、それに代わるようなものを何かされたんでしょうか。

大谷大学推進室長 ちょっと今はっきりと把握はしていないんですが、例年、多分、2,000人近い方が来られたんじゃないかなと記憶しています。2日間にわたってオープンキャンパスをして、それぞれで1,000人か足して1,000人だったかはちょっと把握していないんですが、いずれにしても1,000人以上は来られていると認識しております。今年度につきましては、コロナの影響でオンライン上でのオープンキャンパスということで、たしか5日間ほどされておったと思います。その利用者っていうか、訪れた方がどれだけかっていうのはちょっとまだ確認しておりませんので、確認して、また御報告したいと思います。

松尾数則委員 ちょっと確認させてください。学生数が多ければいいんじゃないかと、例えば100何%となっているみたいですが、ある程度多くなると、当然交付税措置が外されるんじゃないかという気がするんです。こ

れが何%だったんですかね。

大谷大学推進室長 たしか国立大学はそういうのがあったかもしれないんですけど、公立大学については、どこまで超えたら減額っていうのをちょっと認識しておりません。あるのかもしれませんが、それは多分1.1倍とか、その辺かなという気はしております。

高松秀樹分科会長 前もそういう質疑と答弁があったような気がしますけど。

山田伸幸委員 それと、基金を取り崩してくるほうが多いと思うんですけど、だんだん減ってきておりますのでね。これは何口かに分けているんですか、それとも一口という形で積み立てているんでしょうか。

大谷大学推進室長 これは今のところ、普通交付税分として積み立てているものと、あとそれとは別に企業や法人から寄附を頂いておりますので、一応そちらと分けて管理して、今二つに分けて管理しています。

中村博行委員 交付金の算定ルールということで、「他の大学を参考にし」というのがあるんですけど、例えばどういう大学を考えておられて、具体的にどういう協議をされるのかということがあればお願いします。

大谷大学推進室長 交付金の算定ルールにつきましては、大体どこの大学も似たような感じなんですけど、毎年1%ずつぐらい削減していくというような形では作られていて、その中にいろいろと一般管理費とか、そういった係数じゃないですけど、そのはじき方とかは様々なんですけど、ただ、それらを参考に今後作っていきたいと思っています。ただ、先ほど申し上げましたが、まだ全体像がちょっと見えてこないんで、どこまでの係数を掛けたらいいのかどうか、ちょっとまだ分からないという面がありますが、私がいろいろと見る中では、大体同じような形ではルールを作っておられると思っています。

高松秀樹分科会長 毎回ここに同じことを書いていますよね。早くね。

藤岡修美副分科会長 成果指標が定員に対する学生数で書かれているんですけども、実際、人数が増えると、例えば令和元年度では1年生が145人、令和2年度では2年生が147人。これは定員に対して、それだけの学生数があるっていうことは、留年等々が考えられるんですけど、授業に支障は出ないんですか。定員に対してそれだけの学生数があることは。

大谷大学推進室長 ちょっと、どれぐらいになると支障が出るのか分からないんですが、大学側も人数が増えればそういった対応はされておると思いますので、授業等に支障が出るということはないと考えております。

高松秀樹分科会長 こういう質問があったんで、是非大学に行かれるときは聞いてみてってください。ほかになければ、決算書に入ります。決算書は説明がありませんので、162ページから165ページまでです。もう一括で行きたいと思います。質疑のある方。

吉永美子委員 報酬のところ。資料を出していただいているので、分かったのは分かったんですが、実績で、評価委員会が2回で1万2,000円とあったので、なぜかなと思っていて。もともとは6回予定しておられて、また、委員数も4人になったと資料に書いてあって、これは予定がもともと6回はやらなければならないと思っておられたのが2回で済んだのか。それともう一つは、5人おられたのが、なぜ4人になったのか。この二つをお知らせください。

大谷大学推進室長 会議の開催数につきましては、他大学、他の自治体の例を見ていくと1回で終わるところもありますし、6回以上やられるところもありますんで、通常3回ぐらいかなと思うんですが、委員の審議の中でそれ以上掛かる場合もあるかもしれませんので、通常、6回あれば、

ほかの自治体でも、他の評価委員会でも大体1年間で済んでおるということで、その辺を目安に6回として予算を取っております。委員について5人が4人ということですが、委員が1人、途中で勤務先の都合で転勤をされましたので、その方が途中で抜けられたということです。補充等は、ちょっとなかなか間に合いませんでしたので、4人でしておったということです。

吉永美子委員 減った理由は分かりました。それで2回ってというのが、大学としてどうなのかという評価をするための委員会ですが、この2回の会議はどのような内容になったのかを教えてください。

大谷大学推進室長 これは毎年、大学から、前年度の事業についての業務実績の報告書が出てまいりまして、この評価をするようになるんですが、この評価の内容につきましては、12月議会で、例年、議会にも御報告を差し上げておりますが、この評価するに当たりまして、まず1回目は大学からこの評価委員会の会議に出席をしていただいて、その事業内容について大学がどのように考えておられるとか、実績について御説明をしていただくということです。それに基づきまして、事務局で評価報告書の原案を作っていくという作業をして、その原案につきまして委員会で諮っていただくということになります。それが1回で終わることも、次の1回で終わることもありますし、2回、3回と掛かることもあるということです。令和元年度につきましては1回の事業報告、大学からの説明と1回の会議で終わったということです。

山田伸幸委員 支出の中に役務費の保険料があるんですけど、これは一体何のために支出されているんでしょうか。

大谷大学推進室長 公用車をリースしており、自動車損害共済の分担金と大学の研究機器類等に掛ける建物総合損害共済基金の分担金になります。

山田伸幸委員 今、二つ目に言われたのは、大学自身がやるべきものではない
んですか。

大谷大学推進室長 市が大学に無償で貸し付けているということで、市のほう
で保険料を掛けている状況です。

高松秀樹分科会長 ほかありますか。いいですか。（「なし」と呼ぶ者あり）
よければ、これで議案第78号令和元年度山陽小野田市一般会計歳入歳
出決算認定の理科大分の審査を終わり…（発言する者あり）すいません。
それでは、歳入に行きます。92ページから行きましょうか。

吉永美子委員 資料5に書いてあって、これは説明があったのに忘れているか
もしれないんですが、まちづくり魅力基金繰入金で、これは課長提案事
業で、薬膳によるひと・まち・しごと活性化事業が47万円あったのが
不執行となっているんですが、これはどういう理由でしたっけ。

大谷大学推進室長 すいません、御説明しておりませんでした。ちょっと言い
訳にもなりません、令和元年度ですが、まず当初につきましては、新
危険物倉庫への対応をしておったということで、当初からちょっとなか
なか事務に着手できませんでした。次に、夏ぐらいからと予定しておっ
たんですが、こちらにつきましては、公文書の不適切な取扱いというこ
とで、その辺の調査等をおったということと、それからまた秋以降
には建築基準法違反の問題が出てきたということで、ちょっとこれはそ
の中でもやるべきことでしたが、ちょっと手が間に合わなかったという
ことです。言い訳にはなりませんけど、事業に着手できなかったという
ことです。

吉永美子委員 せっかく考えておられたのができなかったのは、これは今後ど
うされるんですか。もう終わりですか。

大谷大学推進室長 一応この事業につきましては、ちょっと、全部一緒じゃないんですが、こういった活動を地域の団体がされて、理科大の先生方と協力して、料理人の方とかも入ったりして、薬膳の弁当とか作っておられたり、薬草園を作っておられたりする団体がありましたんで、ちょっとそこの代表の方ともいろいろとお話をしておりまして、こういう考えがあるんで、ちょっとまた御相談させてくださいということで、その中で薬草を使ったお弁当の会にも呼んでいただいて、いろいろとお話をしておったんですが、ちょっと私のほうがもうちょっと、手が付けられなかったということです。

吉永美子委員 課長提案事業そのものは終わっちゃったけど、そうじゃなくて、せっかくされとったのは、今後はされないんでしょうかということです。

大谷大学推進室長 すいません、ちょっと今のところ、やる予定はありません。

高松秀樹分科会長 ほかにありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）はい、なければ、98ページ、99ページの雑入です。これ、雑入のどこになるんですか。（発言する者あり）資料にあるそうです。よろしいですか。次、106ページ、107ページ、22款1項1目市債。はい。ないですね。よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）それでは、以上で理科大分の令和元年度の決算審査を終わります。どうしましょうか、ここで1回休憩したほうがいいですか。決算シートをやりますけど。休憩しますか。やりましょうか。（発言する者あり）ならやりましょう。執行部の皆さん、お疲れ様でした。どうぞ御退席ください。

（執行部退室）

高松秀樹分科会長 お手元に事業評価表があります。対象事業 38、39を1枚に書いていますが、一つずつ行きたいと思います。皆さんの意見をまとめて、分科会として提出したいと思います。まず 38番の校舎整備事業。

この左の表です。成果の方向性コスト投入の方向性、どこにチェック入れるかっていう話ですけど、先ほどいろいろ厳しい意見がありましたので、厳しい意見を言っていた皆さんから、具体的にどこにチェックを入れるべきかを言っていたらと思います。

松尾数則委員 いや、どこに入れるかというところで発言したわけじゃなくて、基本的なこのチェックリスト表に入れづらいからどうすればいいでしょうかっていう発言なんですよね。例えば、現状維持になっていましたけど、これを縮小すればいいのか拡大すればいいのかという類いの話ではないような気がするんです。どうするかという話。だから、どうしましょうかっていう話なんですけど、逆に言えば。

笹木慶之委員 当該評価はできないでいいんじゃないですか。最初から言っているように、この形では評価できないということです。

高松秀樹分科会長 いわゆる評価できないと。（「均一的な評価ではないということ」と呼ぶ者あり）左のところにチェックは入れられないということ、特記事項で書き込むという御意見ですが、どうですか皆さん。

吉永美子委員 言われるとおりで難しいと思いますし、特記事項のところに、先ほど申しあげましたように本当にもうスピードを上げて、その次の令和3年度に向けた課題及び改善策とあるように、それを早期の着工と言われてはいますが、とにかく早くやれっていうことは、私は併せて先ほど臨時議会を開いてでもって申しあげましたけれども、議会としてはもう早くということ、学生のために、そこはちょっと入れていただきたいという思いを持っています。

高松秀樹分科会長 今の話では2段構えになりますよね。この表では評価できないっていう書き方で、その上で吉永委員の言われたことを追加で書くという形。

笹木慶之委員 もう1点は、今聞き取りの中で、9月末までに方針を出すということ、事務局が言ったと思いますから、市が持つのか大学が持つのかということも含めてね。だから、そういう方向性の中で、早急に対応されたいということで、言われたわけですから、それは取って表現すればいいんじゃないですかね。

高松秀樹分科会長 そういう形で書き込みましょうか。左はチェックなし。特記事項に、今のお二人の意見、さらに、松尾委員の意見を中心に書き込むと。（「はい」と呼ぶ者あり）そうします。続きまして、ナンバー39番運営費交付事業について。これはチェックを入れられると思うんですが、まず、コスト投入の方向性。皆減、縮小、現状維持、拡大と。現状維持ですよ。成果の方向性は、現状維持、拡充。現状維持。

笹木慶之委員 これは交付金事業で、交付金の算定のルールに基づいて表記されておるわけで、中身については不審な点はありませんから、それはそれとして。正常に運営されておるということで、今後もそのようにされたいということ以外ないんじゃないですか。特段ないと思います。

高松秀樹分科会長 ということは、現状維持と現状維持で。今後の方向性については、今の笹木委員の意見を書き込むということによろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）よろしければ、分科会として、今の評価シートを清書して提出するようになります。以上で、分科会を終わります。お疲れ様でした。

午後3時3分 散会

令和2年（2020年）9月10日

一般会計予算決算常任委員会理科大分科会長 高松秀樹